

涸沼自然公園魅力アップ計画



茨城町生活経済部商工観光課

目 次

1. 涸沼自然公園魅力アップ計画とは	1
(1) 計画策定の背景と目的	1
(2) 計画区域と期間	1
(3) 上位関連計画等	2
(4) 涸沼自然公園の概況	5
2. 現状と課題	7
(1) 現在の公園の主要施設	7
(2) 公園利用状況	12
(3) イベント等の実施状況	13
(4) 関連施設の利用状況（親沢・広浦公園の利用状況）	15
(5) 施設老朽化への課題	16
(6) その他の課題	19
3. 整備方針の設定	20
4. 涸沼自然公園魅力アップ計画	21
(1) ゾーニング計画	21
(2) 涸沼自然公園魅力アップ計画 全体計画図	33
(3) 園内動線計画	34
(4) 数値目標	36
(5) ゾーン別概算工事費（案）	37
5. 管理業務方法の検討	38
6. 参考	39

1 涸沼自然公園魅力アップ計画とは

（１）計画策定の背景と目的

涸沼自然公園は、昭和 59 年に設置計画、昭和 60 年に基本計画が策定され、昭和 62 年には盛土造成工事が開始され、平成 4 年 11 月には公園側のみが一部開園し、約 2 年半後の平成 7 年 4 月には、キャンプ場を含め全面開園しました。

町民が自然を楽しみ、心の安らぎの場として利用することを目的として設置され、平成 28 年度には 8 万人を超える来園者を記録しており、茨城町を代表する観光拠点となっております。

平成 22 年にはあじさいの谷に広がるあじさいを活かして「ひぬまあじさいまつり」を開始。平成 23 年 6 月には、「茨城町涸沼自然公園再整備計画」を策定し、公園に対する愛着心を営むとともに公園利用の促進に努めてきたところです。

しかしながら現在、開園以降 25 年以上が経過し、園内の各種施設の老朽化に伴い、補修が必要な箇所が増加しており、効果的な修繕計画が必要となっています。

また、平成 27 年には涸沼がラムサール条約に登録。更に、平成 30 年管理事務所施設を一部改修し、施設内に売店「いととんぼ」の営業を開始。令和元年度よりサイクルーツリズム事業に取り組み、同年、県内の 9 つの庭園で構成される「いばらきガーデン&オーチャードーツリズム登録制度」に登録されることとなりました。

これまでの“町を代表する観光拠点”としての涸沼自然公園だけでなく、町民協働の場、環境教育の場、町民の憩いの場等として、時代の流れに沿った公園を作っていくことが求められています。

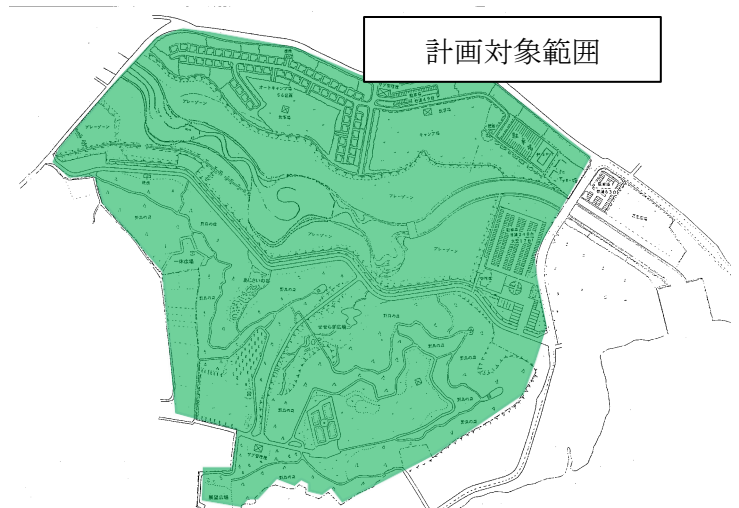
茨城町第 6 次総合計画においても、公園の整備と適切な維持管理が位置づけられ、「関係団体等による緑化運動や花づくり運動の促進を推進し、花と緑あふれる美しく快適な環境づくりを進めていくこと」としています。

このような状況を踏まえたうえで、茨城町の重要な魅力ある観光拠点として、町民の憩いの空間、自然と触れ合い、感動できる公園として、基本方針の下、新しく魅力づくりをするために「涸沼自然公園魅力アップ計画」を策定するものです。

（２）計画区域と期間

本計画の対象範囲は、涸沼自然公園及び涸沼自然公園キャンプ場の区域、約 34.5ha を計画対象範囲とする。

計画期間は、令和 4 年度～令和 13 年度までの 10 年間とする。なお、事業の進捗、社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて、期間途中においても計画内容について見直しを行う。



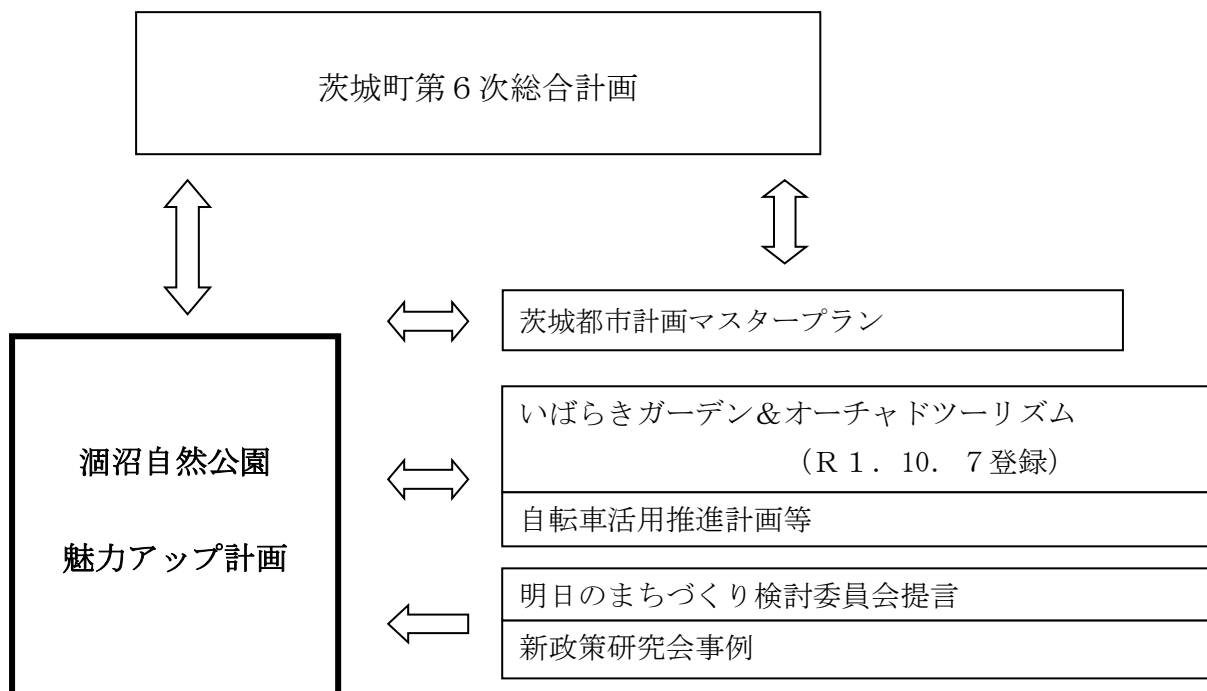
(3) 上位関連計画等

■各種関連計画

茨城町第6次総合計画 《2017年策定》	基本計画 第2章 〈目的と方針〉 レクリエーション空間の創出，花と緑あふれる美しく快適な環境づくりに向け，公園・緑地の整備充実，町ぐるみの緑化推進に努めます。 〈主要施策〉 ●公園・緑地の整備 2-4-1 観光・交流機能の強化に向け，豊かな自然環境を生かした植栽計画の策定や，若宮川を中心とした水辺空間の整備など，水と緑に親しめる空間の創出に努めます。 ●公園・緑地の適正な維持管理 2-4-2 既存の公園・緑地について，関係団体や企業等との協働により，適切な維持管理を行います。 ●遊具等の公園設備の点検・更新 2-4-3 安全性の確保と利用率の向上に向け，遊具をはじめとする老朽化した公園設備の点検・更新を計画的に推進します。 ●緑化の推進 2-4-4 関係団体等による自主的な緑化運動や花づくり運動を促進し，町ぐるみの緑化を推進します。
茨城町都市計画マスタープラン 《2015年策定》	〈自然・交流レクリエーション拠点〉 ●涸沼周辺や主要な公園などを自然・交流レクリエーション拠点として位置づけ，町民や来訪者の憩いの場の形成を図るため，良好な自然環境の維持・保全や，交流拠点としての利活用を進めるなど，本町における自然・交流レクリエーション機能の充実を図ります。
茨城町自転車活用推進計画 《2021年策定》	〈地域資源を活用した地域振興〉 ●まちの主要な観光拠点となる涸沼自然公園は，涸沼をめぐる拠点でもあります。サイクリング拠点としてより利用しやすくするため，訪れた人がサイクリングを楽しめるようなレンタサイクル等の導入を検討し，情報提供など周遊ルートの起点として充実を図ります。

いばらきガーデン&オーチャド ツーリズム 《2019 年登録》	複数の公園の連携による魅力的な体験や交流を創出する取り組みを促し、それによる地域の活性化と庭園文化の普及を図るために設立された制度。 〈オーチャード：果樹園という意味〉 茨城は東京から比較的近い距離にありながら、豊かな自然環境に恵まれている。多種多様な花々や果物や野菜などの恵みが豊富であり、花き園芸を含めた農業は茨城の基幹産業となっている。こうした背景から、茨城ならではの庭園の魅力を発信し、地域振興や観光振興につながる取り組みを実施していく。 具体的には、観光客が来るのは、現在のところ偕楽園や国営ひたち海浜公園だけであるため、他の庭園の見どころを2公園とあわせて紹介し、観光客の増加や滞在型観光の促進を図る。 また、庭園間の移動手段として自転車を採用し、「いばらきサイクルツーリズム」と連携していく。
明日のまちづくり検討委員会提言	「涸沼周辺に原生する植物を生かし、その土地の気候と土壌に合わせた「ナチュラルガーデン」に整備する。」 ・植物育成の専門家を配置する。 ・ガーデンボランティアを育成する。 「涸沼に生息する絶滅危惧種や希少種の植物などの保護を行う場にする。」 ・昔生息していた蛸を呼び戻すための体験型のプロジェクト 「休日に滞在型のイベントを行い、賑わいを創出する。」 ・町の生産者による農水産物などの販売、ビアガーデン、演奏会など 「ペット同伴入場可にし、様々な人が憩える公園にする。」 「涸沼自然公園をサイクリングの拠点とする。レンタサイクルを行い、涸沼周辺のサイクリングロードの整備をする。」 「涸沼自然公園キャンプ場でキャンプ用具一式を貸出する「手ぶらでキャンプ」を開始し、同時に高校生、大学生などのキャンプビギナーでも気軽に体験ができるよう「キャンプ講習会」を開催する。」

(整備計画の位置付け)



（４）涸沼自然公園の概況

■公園の位置

北関東自動車道 水戸南 IC から車で１０分の距離にあり、涸沼に隣接し、若宮川が公園内を流れ、自然を身近に感じることのできる公園として、町内外から多くの来園者が訪れている。



■公園の特徴

34.5ha の広大な敷地を誇る涸沼自然公園は、自然の地形を生かした公園として、涸沼のほとりの自然を丸ごとアウトドア施設として提供している。

広い園内には、テントサイト、オートキャンプ場、 広場があるので楽しみ方もいろいろ。広場は全部で５つ。溪流があつたり、谷一面に花が咲いていたり、個性もそれぞれとなっている。せせらぎ広場では、サワガニやカエルなど、水辺の生き物が溢れています。約 1.5km の散策路は、山あり谷ありの起伏を歩きながら自然を楽しむことができる。

また、園内の「あじさいの谷」では、例年 6 月中旬から 7 月上旬にかけて色とりどりのあじさいの花が咲き誇り、訪れる人たちの心を和ませてくれる。

2010 年から開催されている「ひぬまあじさいまつり」では、自然の景観を生かした約 1 万株のあじさいを観に、毎年町内外から多くの観光客が訪れている。

■これまでの変遷

年 月	整 備	事 業	備 考
昭和 59 年 10 月	設置計画策定		
昭和 60 年 7 月	基本計画策定		
昭和 62 年	盛土造成工事		
昭和 62 年～ 平成 6 年	造成工事・建築工事・園路整備 工事等		総事業費 33 億円 内訳 工事費 2,713 百万円 用地買収費 608 百万円
平成 4 年 11 月	涸沼自然公園山林側一部開園		
平成 7 年 4 月	全面開園		
平成 22 年 7 月		ひぬまあじさいまつり開催	
平成 23 年 6 月	涸沼自然公園再整備計画策定		
平成 27 年 5 月			ラムサール条 約登録
平成 27 年 7 月		観光ボランティアガイド発足	
平成 28 年 10 月		ひぬま d e マルシェ開始	
平成 29 年 12 月		クリスマスイルミネーション 開始	
平成 30 年 5 月		売店「いととんぼ」営業開始	
令和元年 10 月		サイクルサポートスポット設 置	ガーデンツー リズムに登録

2 現状と課題

(1) 現在の公園の主要施設

N o	施設の名称等	施設の概要
①	せせらぎ広場・ せせらぎの滝	せせらぎ広場の真ん中を、滝になって落ちた水が石路を下り、池へ流れている。周りに木々が生い茂る中で、夏には子供たちの水遊びの場としてにぎわう。
②	イトトンボ橋	せせらぎ広場にかかっているシンボルのなつり橋。橋の上からは、せせらぎの滝の上流・下流を眺めることができる。
③	太陽の広場	広大な芝生広場であり、運動やピクニックなど自由に遊べる広場で、イベント等にも利用されている。広場には四面花壇や藤棚も設置されている。
④	展望広場	展望広場には、石のモニュメントがあり、ベッドやイス、鳥の水飲み場と名前がつけられそうな、様々な形をした石が点在している。
⑤	わいわい広場	小学校低学年まで遊べる遊具や植木迷路があるほか、梅や銀杏の木が生育している。かつては、賑わいの場となっていたが、現在はほぼ使用不可となっている。
⑥	あじさいの谷	自然の地形に植えられた約 1 万株以上のあじさいは、訪れた人を紫の世界に誘います。大パノラマに広がるアジサイ。谷に咲くあじさいは角度があるため立体的に感じることができます。
⑦	一休広場	さくらの丘につながる芝生広場であり、休憩所も設置されている。
⑧	さくらの丘	オーナー制の桜を中心に、斜面地にさくらが植栽されており、春の季節には見ごろを迎え、周囲の樹林地が一体となった静かにくつろげる空間である。
⑨	キャンプ場	250 張設営できるテントキャンプサイトのほか、1 区画 83 m ² の広さのオートキャンプサイトが 56 区画（AC 電源付き）あり、場内にはシャワー水洗トイレのある管理棟や炊事場、バーベキュー等を完備している。
⑩	売店いととんぼ	平成 30 年 5 月に潤沼自然公園の管理事務所内の会議室を改修しオープンした売店。町の特産品である「しじみ」をはじめ、農産物や加工品などを販売している。
⑪	野鳥の森	山側の地形に自然林の中に遊歩道を整備している。
⑫	駐車場	潤沼自然公園 第 1 駐車場 250 台、第 2 駐車場 63 台 キャンプ場 第 1 駐車場 50 台、第 2 駐車場 50 台、第 3 駐車場 90 台

■主要施設の位置



■主要施設の写真

① せせらぎ広場・せせらぎの滝



② イトトンボ橋



③ 太陽の広場



④ 展望広場



⑤ わいわい広場



⑥ あじさいの谷



⑦ 一休広場



⑧ さくらの丘



⑨ キャンプ場



⑩ 売店いとなぼ



⑪ 野鳥の森



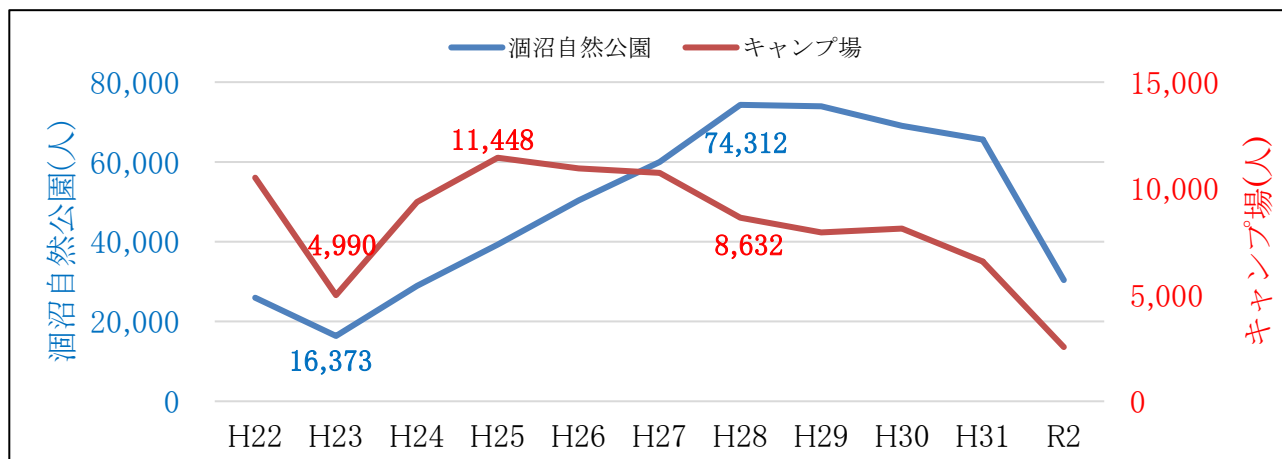
⑫ 駐車場



(2) 公園利用状況

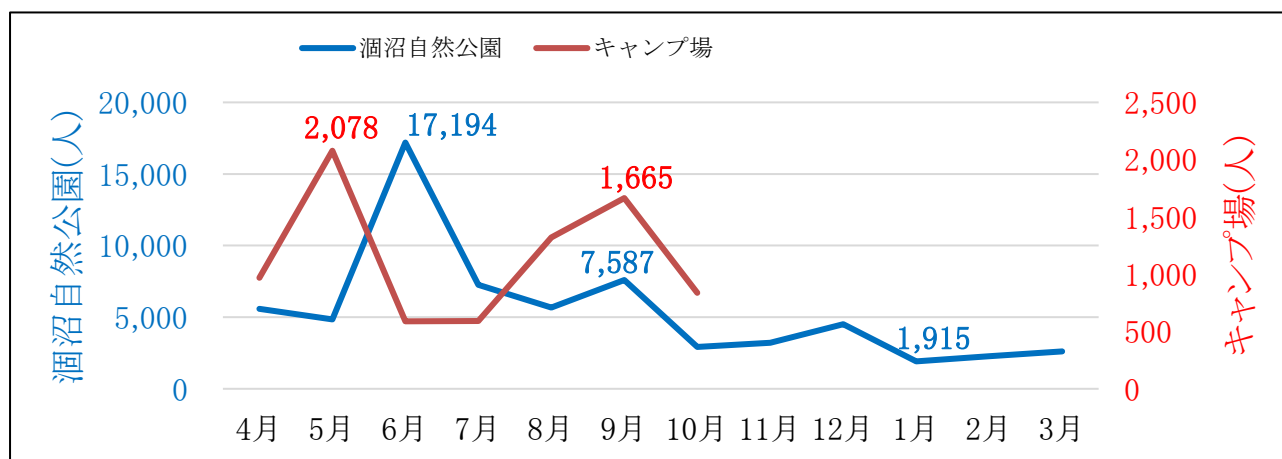
■来園者数の推移 湊沼自然公園及び湊沼自然公園キャンプ場の来園者数

[年度別]



東
日
本
大
震
災

[月別 (R1)]



ゴ
ー
ル
デ
ン
ウ
ィ
ーク

ひ
な
ま
つ
り

シ
ル
バ
ー
ウ
ィ
ーク

(3) イベント等の実施状況

【ひぬまあじさいまつり】

平成22年に初開催され、涸沼自然公園イベント広場を会場として行われている。

涸沼自然公園に咲く約30種1万株のあじさいをテーマに、特設ステージが設営され、様々な企画や催しが楽しめるほか、飲食・体験ブースが立ち並ぶイベント。

(実績) ※イベント日

令和2年度：中止

令和元年7月：8,000人(雨天のため)

平成30年7月：21,000人

平成29年7月：20,000人

平成28年7月：18,000人



【ひぬま de マルシェ】

平成28年に初開催され、涸沼自然公園キャンプ場を会場として行われている。

ハロウィンの時期に、おしゃれなハンドメイド作品や秋の味覚を使ったブースが立ち並ぶ中、大人も子供も仮装して楽しめるイベント。

(実績)

令和2年度：中止

令和元年度：中止(荒天のため)

平成30年度：中止(荒天のため)

平成29年10月：5,000人

平成28年10月：7,000人



【クリスマスイルミネーション】

平成29年に初開催され、涸沼自然公園正面駐車場を会場として行われている。

クリスマスの時期に、涸沼の風景をモチーフにしたイルミネーションが楽しめるイベント。

(実績)

令和2年度：中止

令和元年12月：639人

平成30年12月：541人

平成29年12月：243人



【ビブラントキャンプイベント】

ヴィンテージキャンプ用品の輸入販売を行う民間事業者（ビブラント株式会社）が主催するキャンプイベント。

（実績）

令和3年3月：110人

令和元年11月：167人

平成31年3月：177人



【コールマンキャンプイベント】

キャンプ用品の製造・販売を行う民間事業者（コールマンジャパン株式会社）が主催するキャンプイベント。

（実績）

令和2年11月：600人



【シクロクロス競技大会】

茨城シクロクロス事務局が主催する自転車競技大会。ロードレース選手の冬季トレーニングが起源で、未舗装のオフロードなどのコースで行われる自転車競技であり、1周約2kmのコースを決められた時間内で何周出来るかを競う。

（実績）

令和2年9月：800人

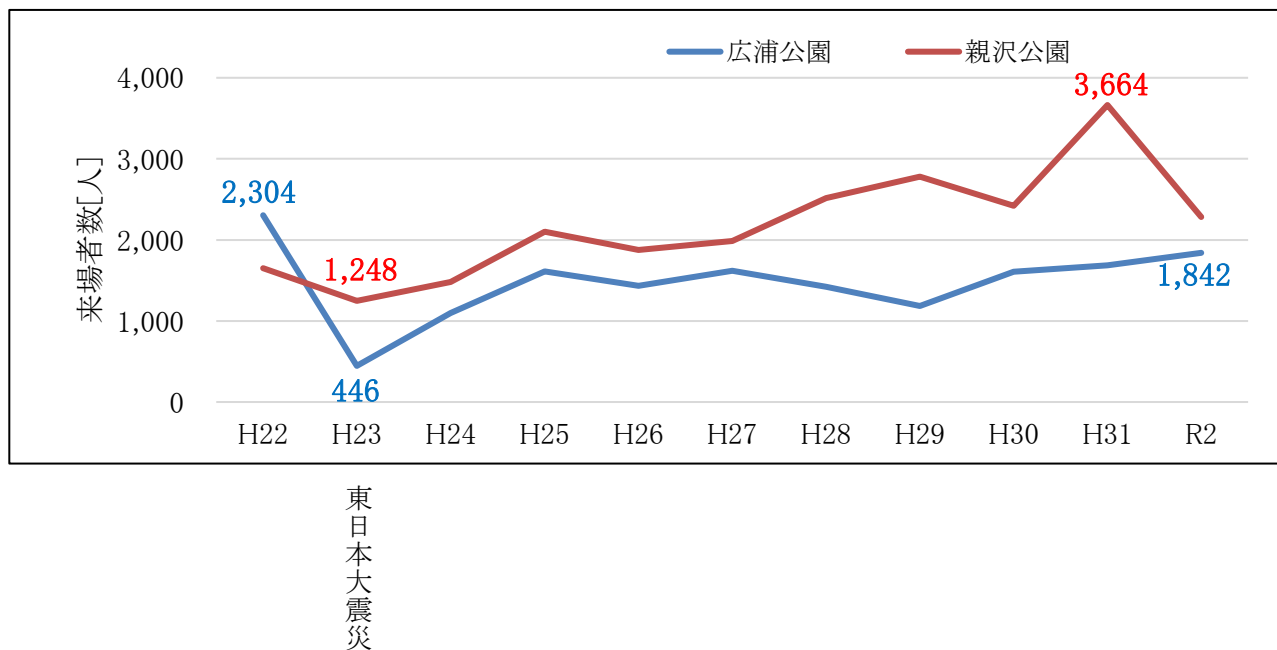
令和元年11月：1,300人



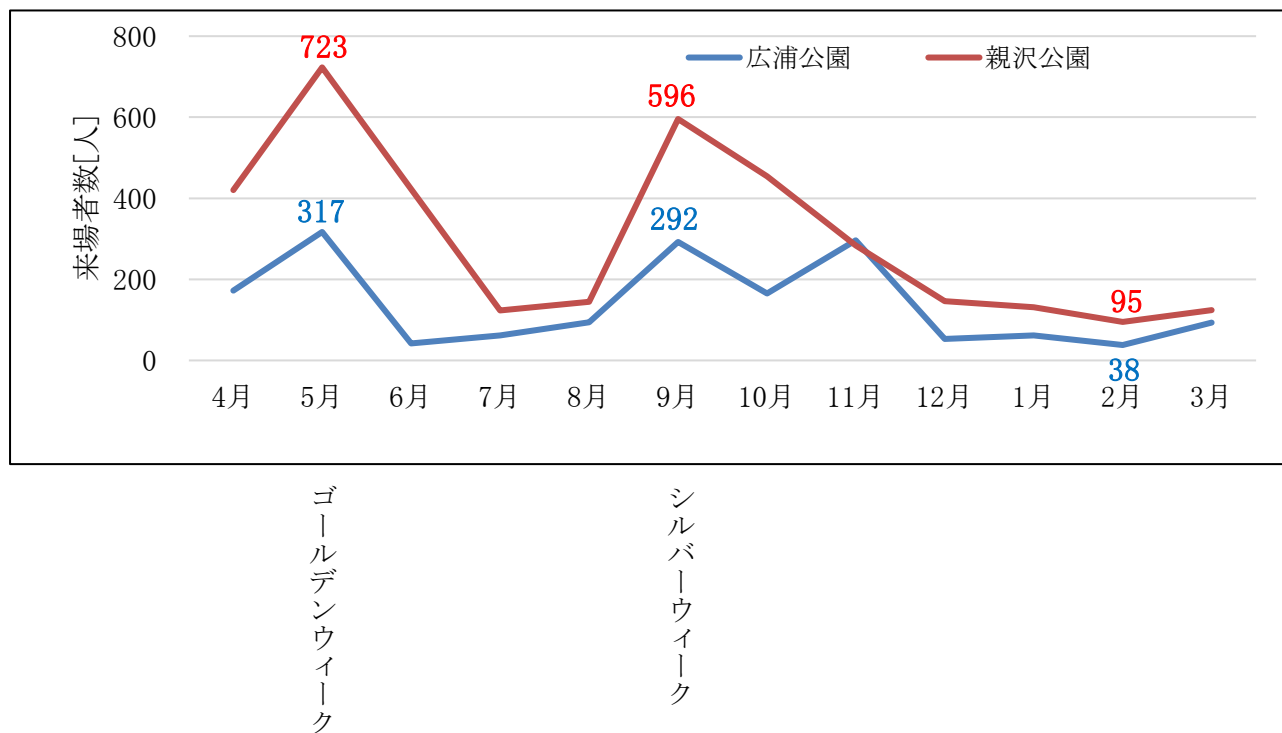
(4) 関連施設の利用状況

広浦公園キャンプ場及び親沢公園キャンプ場の来場者数

[年度別] ※R2 については，緊急事態宣言等により，4月下旬から5月末まで利用中止



[月別 (R1)]



（５）施設老朽化への課題

涸沼自然公園については、平成７年に整備されており、２５年以上経過している。利用者の安全確保の観点などから、随時、適切な維持管理を行っているが、まだまだすべてのニーズに合っていない状況にある。特に、園内に多く設置された、「遊歩道」「木道」「公園内の休憩場所」は開園当初のまま残っており、現在では劣化により利用されていないものもそのまま残っている状況にある。

今後も公園内施設の長寿命化を図るため、計画的な修繕が必要と考えられる。

修繕箇所	理由
------	----

公園内遊歩道（計 512 段）	経年劣化が進んでいるため、耐久性のある防腐処理木材または擬木材を使用し、改修を行う。
-----------------	--



あじさいの谷 周辺の木道	経年劣化により、腐敗等が進んでいるため、木道の改修を行う。
--------------	-------------------------------



涸沼自然公園・キャンプ場 浄化槽修繕	経年劣化により、浄化槽をふさいでいる蓋等が劣化してしまい、匂いがもれてしまっている。
---------------------------	---



公園内の休憩場所 (イス・テーブル)	経年劣化により、腐敗等が進んでおり使用不能のものが公園内に点在しているため、撤去及び新設する。
-------------------------------	--



展望広場及び太陽の広場の見晴らしの改善	樹木が繁茂し、涸沼の展望を妨害しているため、立木等の伐採を行い、展望の改善を行う。
----------------------------	--



(開園当時)



(現在)

キャンプ場内トイレシャワー室内 壁修繕及びシャワー室のリニュー アル	キャンプ場の一番の魅力改善につながるため、衛生環境を改善し、利用者が使いやすい環境を整える。
---	---



公園管理事務所	設置後 28 年経過し、劣化により改修が必要な箇所（雨漏り・天井壁に亀裂など）が多々ある。長寿命化を図るため、施設の修繕に取り組む。
----------------	---



（６）その他の課題

①ペットの入園について

- ・現状、ペットの入園については、他の来場者への安全性や糞尿等による植物への悪影響を鑑み、禁止としている。
- ・近年、ペットの家族化が進む中で、公園利用者のペット入園可に関する要望は多い。

②酒沼自然公園キャンプ場の利用料金の改定について

- ・キャンプ場の利用料金については、開園以来変更していない。
- ・今の時代にあったテントやタープを想定して設定した利用料金ではないため、料金体系が適していない。

③網掛公園のキャンプ場としての利用について

- ・町立観光公園において、網掛公園のみキャンプ場としては開放していない。
- ・網掛公園は地元住民に密着した公園であるため、キャンプ客が来ることによる環境の変化に関して、地元住民との調整が必要となる。

④休憩できるスペースの設置について

- ・酒沼自然公園内で飲食できる施設がない。
- ・売店「いととんぼ」において、現状の施設では飲食店の営業許可がとれない。今後の運営について検討が必要である。

3 整備方針の設定

【 目指す公園 】

長く愛され続ける観光・交流拠点

【 基本方針 】

方針1 地域協働が育む公園づくり

町民などで構成するガーデンボランティア組織が公園づくりに参加することにより、緑化意識の高揚、公園への愛護心、町民間交流、生きがい・やりがい作り、公園のマナー向上、健康増進へと繋がるよう努めます。

方針2 人が集う魅力ある公園づくり

様々な魅力あるイベントの誘致、四季・自然・地形などのポテンシャルを活かして、憩いと安らぎ・植物・生物・健康・スポーツなど多様な要素の観光資源を創出することにより、リピーターを生み、イベントを開催していない時期でも一年を通した賑わいに繋がるよう努めます。

方針3 自然の恵みを未来へつなぐ公園づくり

人と自然が共生する環境づくり、自然学習や体験学習プログラムを充実することにより、自然公園そのものが生涯学習の場となって人を育て、町全体が貴重な自然環境を未来に残す意識の高揚へと繋がるよう努めます。

方針4 快適で安心安全な公園づくり

施設の計画的かつ適切な維持管理、ユニバーサルデザインを取り入れた誰もが利用しやすい公園づくり、多様なニーズに対応した公園づくりを実現することによって、誰もが安心・安全・快適に過ごせる空間づくりと繋がるよう努めます。

方針5 町民が誇りに思える公園づくり

身近にある公園が様々な魅力を有し、県内外から多くの来園者が訪れる有数の公園へと成長し、涸沼と並ぶ町のシンボリック的存在になることで、町民誰もが自慢や誇りに思える公園へと繋がるよう努めます。

4 涸沼自然公園魅力アップ計画

(1) ゾーニング計画

「涸沼自然公園」という名のとおり、花・緑・自然を体いっぱい五感で感じる公園を目指し、それぞれのゾーンに分けた方針を定める。

見る	あじさいゾーン、さくらゾーン、展望ゾーン、紅葉ゾーン
聴く	花・草・木のざわめき、森の小鳥のさえずり
香る	フラワーゾーン
触る	景観的果樹ゾーン、水辺の空間ゾーン
動く	イベントゾーン、わくわくゾーン

自然公園の整備を11つのゾーンに分け、優先順位により整備を行います。

ゾーン名	基本目標等
(1) あじさいゾーン	あじさいの育成整備及び景観的植栽を実施。涸沼自然公園のシンボルとなるよう、あじさいを植栽し、現状の1.5倍の1万5千株にする。
(2) さくらゾーン	枝打ち、剪定、施肥を行い、花見やさくらまつりができるように管理する。
(3) 景観的果樹ゾーン	景観的果樹として、実のなる木を植樹し、来場者が果樹狩り等も楽しめる環境を整える。新たな公園内名所を創設する。
(4) フラワーゾーン	自然公園らしく、四季折々の花の香りを感じられるように花々を植栽し、来園者に癒しの空間を提供する。
(5) イベントゾーン	民間団体等を誘致し、にぎわいを創出する。また、広大な芝生を活かし、グランドゴルフ等が楽しめるエリアとする。
(6) 水辺の空間ゾーン	ヨシ原を一部伐採し、親水空間を整備する。浅くてきれいな若宮川を復活させることで、子どもたちの水遊びに適した環境をつくる。
(7) 眺望ゾーン	展望広場に隣接する傾斜地の立木を枝打ちし、涸沼の眺望を良くする。また公園のシンボルとして展望台を設置し、筑波山・広浦・親沢公園などが一望できよう整備する。
(8) 紅葉ゾーン	せせらぎの川を再整備し、子供が遊べる水辺を創設。せせらぎ広場内の傾斜地には、もみじを補植し、紅葉を楽しむことができるゾーンとする。
(9) わくわくゾーン	フィールドアスレチックのような人気の遊具を新設、子供から大人まで楽しめるエリアを創設する。
(10) キャンプ場ゾーン	修繕箇所の洗い出しを行い、水回り（トイレ、シャワールーム等）のリニューアル、SNS等でキャンプ場のPRを行い、新規客の集客につなげる。涸沼自然公園キャンプ場については、年間運営を検討する。
(11) 自転車の活用	涸沼自然公園をサイクリングの拠点とし、サイクルツーリズムを推進していく。

あじさいゾーン

現状と課題

- 傾斜地が多く一部水捌けが悪い所もあり，地形も複雑である。
- あじさいは30種類ほどあり，期間中は色鮮やかなあじさいを楽しめる。
- あじさいの谷整備から年数がたち，生育不純な箇所や枯れてしまった箇所があり，谷内にあじさいがない箇所が目立つ。
- 自然を利用した遊歩道や階段，木道が整備されているが，劣化がひどく，修繕が必要な箇所が目立つ。



計画目標

あじさいの育成整備及び景観的植栽を実施。涸沼自然公園のシンボルとなるよう，あじさいを植栽し，現状の1.5倍の1万5千株にする。

主な整備方針

涸沼自然公園の目玉であるあじさいのバージョンアップを最優先とし，単年度ではなく年次計画として整備していく。

- ① 公園内でも，あじさいの生育良好な箇所，生育不純な箇所とばらつきがあるため，育ったあじさいをあじさいの谷に植栽するローテーション植栽を実施し，あじさいの谷のリニューアルに取り組む。また，**暗渠等を整備し，あじさいが育ちやすい環境を整える。**
- ② 自然公園正面入口の両側にあじさいを植栽し「ウェルカムあじさいロード」，**あじさいの谷に向かう園路両側にあじさいを植栽し「あじさいロード」**，あじさいの谷内に「フォトスポット」，新たなスポットを創設する。
- ③ **劣化してしまった遊歩道や木道を修繕し**，歩いて楽しめるあじさい巡りコースを再構築する。
- ④ 水はけが悪くあじさいが育たない場所には，ヘメロカリス・水芭蕉等を植栽し，あじさいとともに花の新たなスポットを創設する。

さくらゾーン

現状と課題

○自然公園には約 300 本のさくらが、さくらの丘及び管理道路両側にあり、隠れたさくらの名所として、毎年訪れる方も多い。

○さくらの木は、年数がたち、傷んだ古木が目立ってきている。現在消毒は年 1 回実施。剪定等手入れをしていないため、適切な管理がなく、枝張りが見苦しかったり、てんぐ巣病などで、花の付きが悪かったりする箇所も見られる。



計画目標

枝打ち、剪定、施肥などを行い、花見やさくらまつりができるように管理する。また、夜桜も自然と調和して大変見応えがあると考え、ライトアップ等も検討していく。

主な整備方針

- ① さくらの木については病虫害防除しか行っていないため、**てんぐ巣病の除去(剪定)を行う**。また、枝打ち、剪定、施肥も植栽管理に組み込む。
- ② さくらゾーン下の芝生を整備し、さくら関係のイベント（まつり期間やフォトコンテスト、ライトアップ等）を創設し、さくらの時期の新たな名所とし誘客につなげる。
- ③ **年数がたち、さくらが枯れてしまっている箇所が見受けられるため**、再度、さくらのオーナー制度等を行い補植する。



景観的果樹ゾーン

現状と課題

- 現状は日当たりも良く、涸沼から見ると南斜面である。
- 太陽の広場と展望広場の間であり、北風が当たりにくく果樹の環境に良い場所である。
- 現状のわくわく広場は、遊具は劣化し一部使用不可、砂場も使用不可。つつじで整備された自然の迷路も劣化により、使用不可となっている。



計画目標

景観的果樹として、実のなる木を植樹し、来場者が果樹狩り等も楽しめる環境を整える。新たな公園内名所を創設する。

主な整備方針

- ① 茨城町の木でもある「梅」の増植を検討する。
→梅の専門家と連携し、梅を使った商品開発やマルシェ内で梅のクラフトブースを展開するなど、涸沼自然公園内の果樹を生かした新たな取り組みを創設する。
- ② 涸沼自然公園は、いばらきガーデン&オーチャードツーリズムに登録されたことを機に、四季の花々だけでなく、果樹園でとれる季節ごとの旬の果物も魅力としていくため、景観的果樹として、ベリー類（ブルーベリー、ラズベリー）を自然公園の環境に合うか試験的に植栽する。また、果樹の生育状況を見ながら種類及び本数を年次的に増やしていく。
- ③ 地元の幼保小の遠足など、校外学習の場として活用するほか、専門的な知識を有する地域の農家の方に管理を依頼する。



フラワーゾーン

現状と課題

- 既存の花壇はあるが、四季を通しての花壇整備は行われていない。
- 公園入口に新設した花壇は、土質がかなり悪く、花を植えてもすぐに枯れてしまっている。
- 一年草の植栽管理を職員・シルバー人材センターで業務の合間に行っているため、花壇管理（除草や水やり等）が問題となっている。



計画目標

自然公園らしく、四季折々の花の香りを感じられるように花々を植栽し、来園者に癒しの空間を提供する。

主な整備方針

- ① 正面入り口花壇については、初夏から夏に見ごろを迎える「ヘメロカリス」を植栽し、あじさいの時期と並行して、涸沼自然公園の花の目玉とする。（湿地に適している。）
- ② 花壇の土は、土の質が悪く、現在咲いている花の生育もよくないため、土壌改良を行い、花を咲かせる環境を整える。土づくりが完了したのちは、花壇に、四季を通した花の植栽を行う。
- ③ 太陽の広場花壇については、茨城県の県花でもある薔薇の品種「イングリッシュローズ」等を植える。（通常の薔薇よりも生育が容易である。）
- ④ 花壇の管理については、ボランティアの方々と連携し、花を整備する。



（ヘメロカリス）



（イングリッシュローズ）

イベントゾーン

現状と課題

○太陽の広場

約 17,000 m²の広さがあり、起伏も少なく、芝生で整備されている。しかしながら、公園入口から離れており、長いのぼり坂のため、広場まで行く人が限られてしまっている。

○ひぬまあじさいまつりイベント会場

ひぬまあじさいまつり時には、ステージを設置し、メイン会場のための活用となっている。



計画目標

民間団体等を誘致し、様々なイベント等に活用することで、にぎわいを創出する。

起伏も少ない広大な芝生である太陽の広場を活用し、涸沼が一望できる景観の中で、グランドゴルフが楽しめるエリアとする。

主な整備方針

- ① 民間団体等を誘致し、イベント会場として貸し出す。
(シクロクロス大会、クロスカンントリー大会、B級グルメフェス)
- ② 広大な空間を利活用するため、グランドゴルフコース等の設置を検討する。
- ③ 快適に登坂ができる移動手段の導入を検討する。
- ④ 涸沼自然公園西側に駐車場を整備する。



水辺の空間ゾーン

現状と課題

- 公園内の若宮川は、白鳥の休憩場所となっているほか、鮭や鮎の生息地である。
- 枯死した植物の堆積物により、湿地の泥炭地化が進み、外来種のオオアカウキクサが増殖している。また、乾燥地には、セイタカアワダチソウが繁殖している。
- ヨシが生い茂り、若宮川が覆われた結果、川の形状を失い、生物多様性が失われてしまっている。
- ヨシ原は磷酸や窒素化合物等を吸収し、また水の浄化に役立つ。
- ヨシ原は景観的に一部適しているが、公園整備の妨げになる。



計画目標

- ヨシ原を一部伐採し、親水空間を整備する。
- 浅くてきれいな若宮川を復活させることで、子どもたちの水遊びに適した環境をつくる。

主な整備方針

- ① **ヨシ原の伐採（公園全体の4分の1程度）を行い、水辺の空間ゾーン**として、子どもたちが生き物観察をできる空間にする。
- ② 公園内若宮川において蜚を生育し、自然環境を守る活動や生物多様性の保全に取り組む。
- ③ 木道を造成し、キャンプ場と公園間のアクセスを向上させる。
- ④ 水鳥湿地センターと連携を図り、自然学習や生物観察の体験学習プログラムを充実させる。

眺望ゾーン

現状と課題

- 立木の成長により，展望広場から湖沼が見えない状態になっている。
- 湖沼を眺望できる場所が少ない。
- 湖沼の撮影が一部しかできない。



計画目標

展望広場に隣接する傾斜地の立木を枝打ちし，湖沼の眺望を良くする。また公園のシンボルとして展望台を設置し，筑波山・広浦・親沢公園などが一望できよう整備する。

主な整備方針

- ① 景観を阻害する樹木の伐採を行い，展望広場と太陽の広場からの展望を改善する。
- ② 休憩地にあるイスやテーブルが劣化により使用不可となっているため，新たに休憩地を設置する。
- ③ 公園のシンボルとなるような展望台・展望デッキの設置や，眺望をゆっくり楽しむためのベンチの設置を検討する。



紅葉ゾーン

現状と課題

- せせらぎの川の水辺と木々の木陰が調和し、子供連れの憩いの場所となっている。天気の良い日には多くの子供連れの来園者でにぎわっている。
- せせらぎの川の中流に泥がたまり、流れが悪くなってしまっている。
- せせらぎ広場の木々については、適切な剪定を行っていないため、枝張りが見苦しい。
- イスやテーブルが劣化してしまい木陰の休憩場所として使用できなくなっている。



計画目標

せせらぎの川を再整備し、子供が遊べる水辺を創設。せせらぎ広場内の傾斜地には、もみじを補植し、紅葉を楽しむことができるゾーンとする。

主な整備方針

- ① せせらぎの川的环境整備。
- ② **せせらぎ広場内の傾斜地には、もみじを補植し、秋の紅葉を楽しめるエリアを創設**する。
- ③ 日陰等に木製のイスやテーブルを設置し、三世代で遊びに来ることができる場所をつくる。

わくわくゾーン

現状と課題

○現在の遊具の設置場所は、わずかな遊具が設置されているが、一部が使用不可となっており、子供たちの遊ぶ環境が整っていない。



計画目標

フィールドアスレチックのような人気の遊具を新設、子供から大人まで楽しめるエリアを創設。

主な整備方針

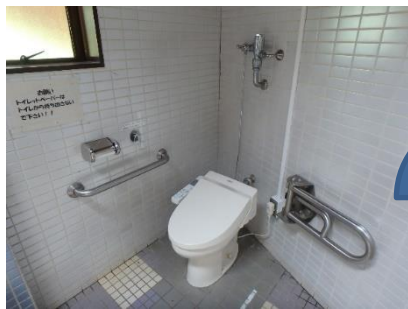
- ① 3世代が過ごせる園を目指し、新たにアスレチック遊具等を新設し、子連れの来園者を増やす。



キャンプ場ゾーン

現状と課題

- 昨今のアウトドアブームもあり，キャンプ場への電話による問い合わせが増え，対応が困難になっている。
- コロナ禍もあり，現在キャンプ場の予約は通常の6割程度としているが，週末は予約が取れないほど人気が出ている。
- 値段設定がオープン当初から変わっていない。
- 施設の老朽化及び維持管理不足になっている。



計画目標

修繕箇所の洗い出しを行い，水回り（トイレ，シャワールーム等）のリニューアル，SNS等でキャンプ場のPRを行い，新規客の集客につなげる。涸沼自然公園キャンプ場については，年間運営を検討する。

主な整備方針

- ① **収入の機会ロスをなくすため，通年営業**を検討する。
- ② キャンプ場の料金設定を見直す。
- ③ 涸沼自然公園キャンプ場は，家族連れのキャンプがメインターゲットであり，**トイレの数，質の向上，洗面台やシャワールームのリフォーム**に取り組む。
- ④ 「みんなで作るキャンプ場」をテーマに，キャンプ場のリニューアル（バーキュー場，炊事場等）をお客さん含めて，みんなで行っていく。（リニューアルにかかる費用を参加料として出資をしてもらい，完成後の利用料優遇などで還元していく など）
- ⑤ **初心者にもやさしいキャンプ場を目指すことで，リピーターの獲得につなげる。そのため，キャンプ用品のレンタル導入**に取り組む。
- ⑥ 元ミニサッカー場テニス場をリニューアルし，アウトドアスポーツ（ボルダリング，スラックライン，スケートボード等）ができる場所とする。
- ⑦ キャンプ場のオンライン予約システムを導入する。

自転車の活用

現状と課題

- 茨城町では、サイクルサポートスポットを設置し、サイクリストが気軽に休憩できる施設として登録している。
- 町内にレンタサイクル施設がない。
- 洺沼自然公園内を自転車で周遊できない。
- 洺沼自然公園駐車場が碎石舗装となっているため、パンクの危険性から自転車では入りにくい。



計画目標

洺沼自然公園をサイクリングの拠点とし、サイクルツーリズムを推進していく。

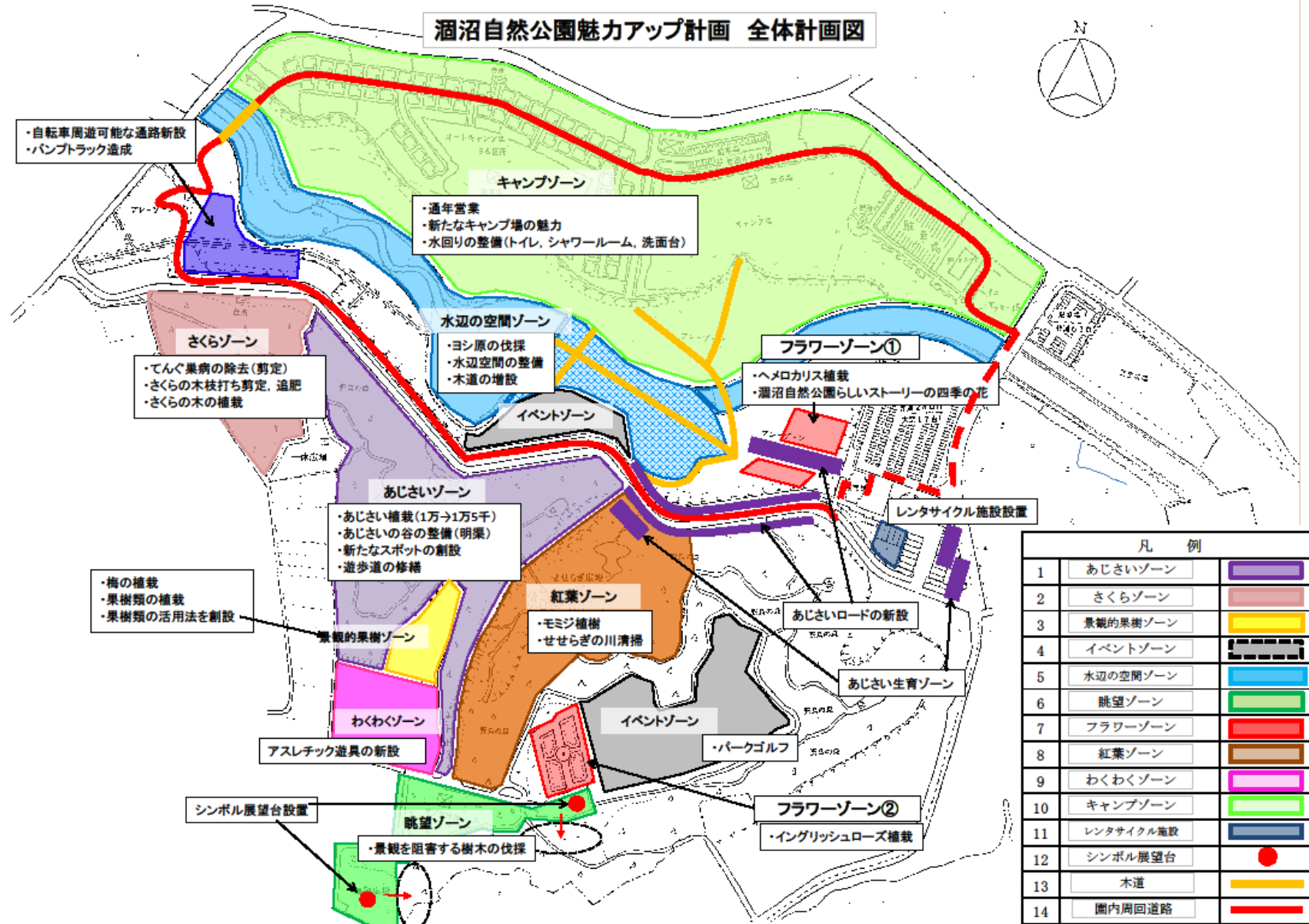
公園内の周遊道路や駐車場を自転車でもストレスなく走れるように整備するとともに、レンタサイクル施設の設置について検討を進める。公園西側にパンプトラックを造成し、レンタサイクルの活用を促進する。

主な整備方針

- ① **公園内を自転車で一周できるように、公園内周遊道路を整備**する。
- ② 公園駐車場を一部舗装し、自転車が走行しやすい環境をつくる。
- ③ 自転車を持っていない初心者でも楽しめるように、電動アシスト付き自転車やタンDEM自転車、マウンテンバイクなどが使用できるレンタサイクル施設を設置する。
- ④ サイクリストが気軽に休憩できる拠点を整備する。
- ⑤ **パンプトラック（起伏のある自転車のショートコース）を造成し、レンタサイクル施設の活用**を促進する。



瀬沼自然公園魅力アップ計画 全体計画図



（２）園内動線計画

園内動線については、現況の共用通路を基に、公園利用者の利便性や安全性、さらなる魅力アップのための仕組みを考慮した動線計画を行う。

【駐車場】

（公園利用者）

現状、公園利用者は涸沼自然公園入口の正面駐車場に車を停車し入園している。

公園西側の現在閉鎖している入口に新たに駐車場を整備することで、園内の回遊性を向上させる。

（キャンプ場利用者）

既存のキャンプ場利用者用駐車場（３か所）を引き続き活用する。

【園内周遊通路】

園内周遊通路は、園内の散策やウォーキングの他、管理用動線としても利用されている。また、シクロクロスイベントの際には、通路を一部封鎖し、自転車レース用の通路として使用した。

①バリアフリー経路

段差や碎石舗装等をなくし、誰もが支障なく通行できる通路とする。また、太陽の広場、展望広場等へのアクセス向上の仕組みとして、レンタサイクルを導入するほか、普通車の特別乗入許可申請等による一部車両の進入やゴルフカートのレンタル運用について検討する。

公園内の各広場間の移動については、高齢者や障害のある人等すべての人が迷わず安全に通行できるようなサインを設置する。

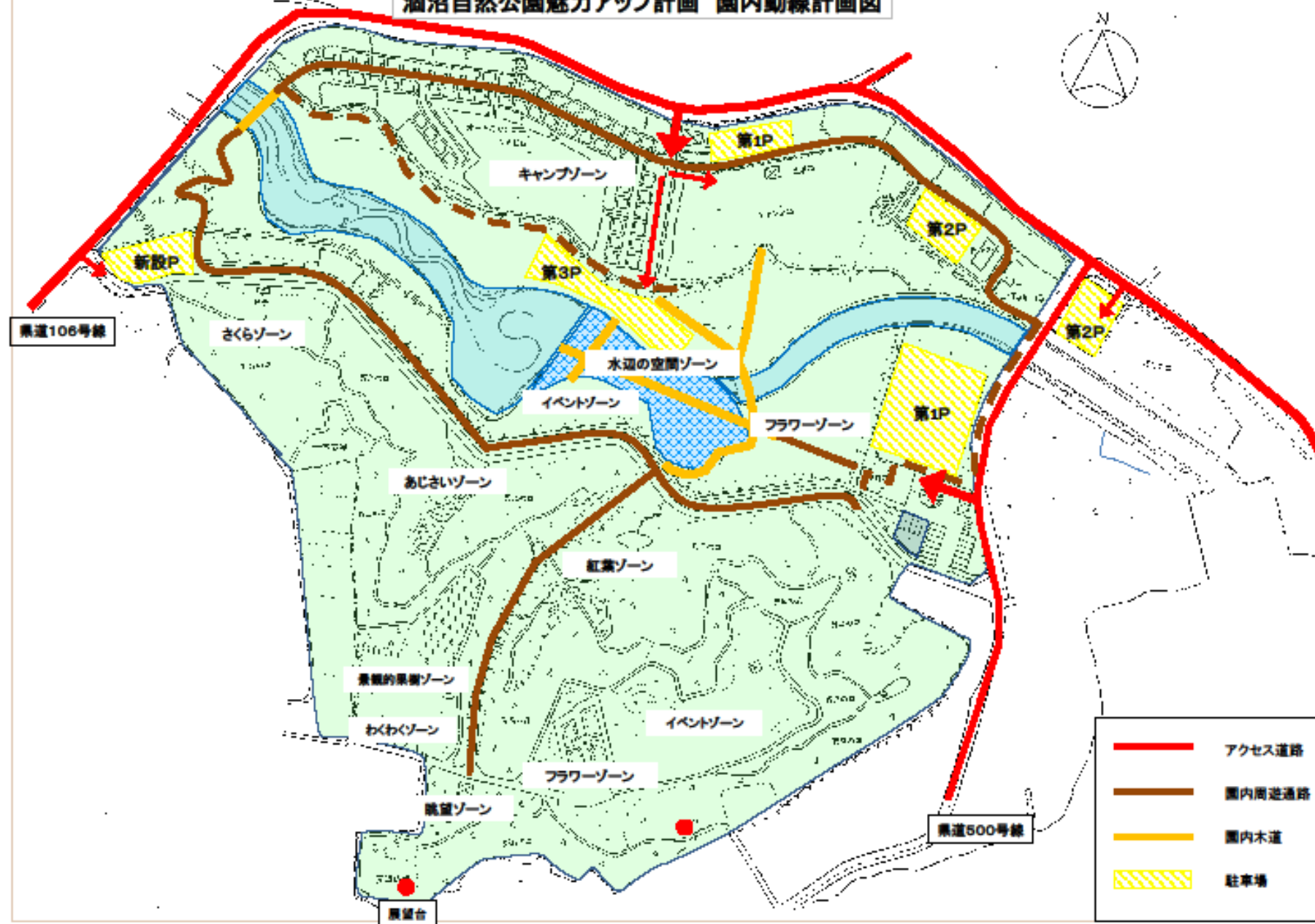
②自転車

公園内を自転車で一周できるように、公園内周遊道路を整備する。また、公園駐車場を一部舗装し、自転車が走行しやすい環境をつくる。

③案内看板

公園全体の配置が分かる案内板や、施設の場所を示す案内板に加えて、利用者が楽しく散策できるように、広場ごとの特徴や見どころが表示されているサインを設置する。

瀬沼自然公園魅力アップ計画 園内動線計画図



(4) 数値目標

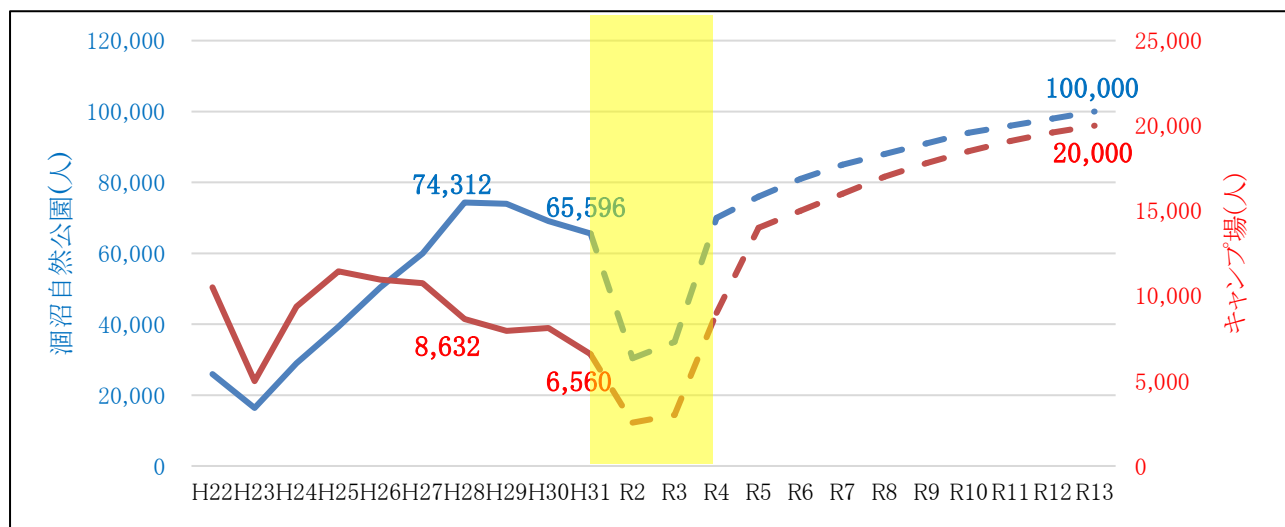
本園のこれまでの年間最高来園者数は、平成 28 年度に記録した 8 万 2 千人であった。

公園の魅力アップを図るための数値目標として、計画終了後の「来園者 12 万人到達」を掲げる。

【公園利用者数】

現況値（令和元年度） 7 万 2 千人

目標値（令和 13 年度） 12 万人



東
日
本
大
震
災

新
型
コ
ロ
ナ
ウ
イ
ル
ス
感
染
症
蔓
延
期

(5) ゾーン別概算工事費（案）

ゾーン名	主な項目	概算工事費
あじさいゾーン	あじさいの植栽	800 万円
	あじさいロード新設	
	あじさいの谷フォトスポット	
	遊歩道と木道の修繕・暗渠整備 等	
さくらゾーン	さくらの木の剪定・管理	600 万円
	さくらの木の植栽	
	さくらに関するイベント 等	
景観的果樹ゾーン	梅の植栽・果樹（ベリー類）の植栽	600 万円
	果樹を使ったイベント	
	自然迷路の撤去 等	
花壇整備ゾーン	ヘメロカリスの植栽	1,300 万円
	薔薇の植栽	
	花壇の土づくり・花壇苗 等	
イベントゾーン	駐車場の整備	1,000 万円
	カート等の整備	
水辺の空間ゾーン	ヨシ原の伐採・水辺の空間整備	4,600 万円
	木道の増設	
	ホタルの観察場所整備	
眺望ゾーン	傾斜地の樹木伐採	5,800 万円
	展望台	
	休憩地の設置 等	
紅葉ゾーン	せせらぎの川の清掃	300 万円
	木々の間伐，枝打ち	
	もみじの植樹	
わくわくゾーン	遊具の撤去	2,800 万円
	遊具の新設	
キャンプ場ゾーン	衛生施設の新設・リフォーム	2,600 万円
	アウトドアスポーツ設備 等	
自転車の活用	レンタサイクル施設	6,400 万円
	パンプトラック	
	周遊道路の整備・公園駐車場舗装	
合 計		2 億 6,800 万円

※概算工事費は参考であり，整備年度により変動する。

5 管理業務方法の検討

涸沼自然公園魅力アップ計画を踏まえて、管理業務方法について下記のとおりと考えます。

（１）整備手法

各ゾーン別の詳細整備計画は、茨城町涸沼自然公園魅力アップ計画（案）に基づき、各種補助金や基金、クラウドファンディング等の手法を模索しながら、ゾーン別整備計画に沿って整備します。また、補助金だけに頼らず、直営でできるところは随時、年次計画に沿って整備していきます。

※年次計画通りに進めるが、社会情勢等も変化するため、計画は定期的に見直しを図り、計画年度途中に成果を検証して修正しながら進めていく。

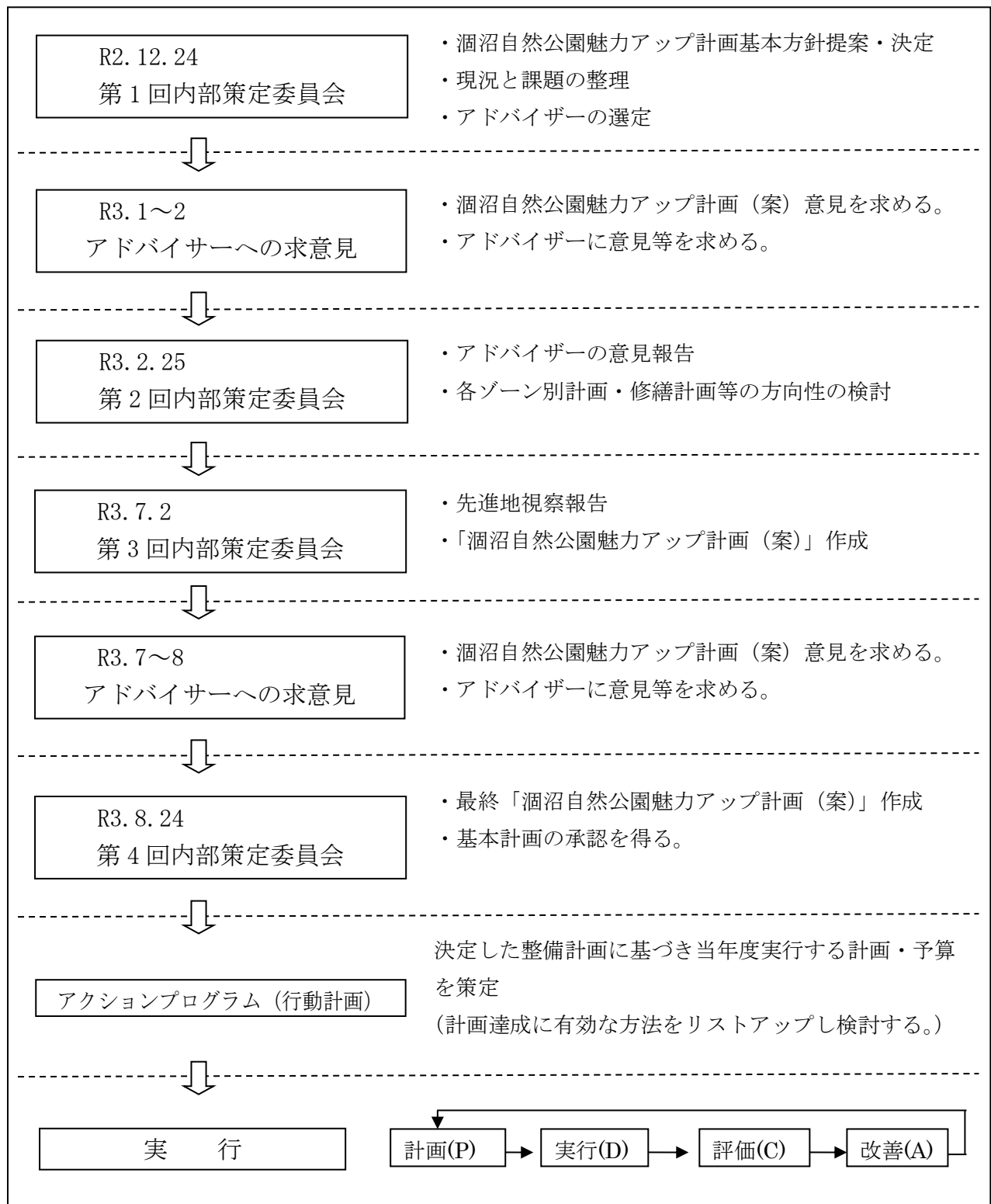
（２）維持管理

維持管理作業については、町が管理をいたしますが、今後は、公園管理者だけではなく、有識者や活動団体等による協働の仕組みも検討する。また維持管理の過程で、発生した間伐材は大切な資源でありますので、ベンチ・テーブルや木材チップなどに活用し、公園内に整備します。

主な管理は、年間の事業計画によりシルバー人材センターを活用し、効率の良い公園整備を行い、公園内に設置してあるイトトンボ橋や新たに導入する遊具などの設備については、定期的な点検により安全安心な公園に努めます。

6 参 考

■整備計画の進め方



■ 年度別推進計画

令和2年度は、涸沼自然公園魅力アップ計画の作成期間と位置づけ、令和3年度から令和13年度の10年間に計画に基づく整備を実行していきます。

5年目となる令和8年度において、評価と課題を整理し、整備内容の見直しを行い、改善を図ります。

令和13年度において、評価と課題を整理し、整備内容の見直しを行い、次期計画を作成します。

年 度	内 容 等		備 考
令和2年度	アドバイザー選定等	↑↓ plan	
令和3年度	涸沼自然公園魅力アップ整備計画策定	↑	
令和4年度	涸沼自然公園魅力アップ整備スタート	↓ do	1年目
⋮			
令和7年度	ゾーン別魅力度アップの作業並びに補修工事	↓	4年目
令和8年度	涸沼自然公園魅力アップ整備計画の評価と改善	↑↓ check&act	5年目
令和9年度	ゾーン別魅力度アップの作業並びに補修工事	↑ do	6年目
⋮			
令和13年度	涸沼自然公園魅力アップ整備計画の評価と改善	↑↓ check&act	10年目

P：計画	R 3
D：実行	R 4～R 13
	年次計画により整備
C：評価	5年を目途に評価
A：改善	改善

■ 涸沼自然公園魅力アップ計画アドバイザー

1 西川 綾子（植物分野・計画全般）

水戸市植物公園 園長

七つ洞公園再生事業に携わり 11 団体のガーデンボランティアを立ち上げ、積極的な活動に十分な実績あり。茨城町在住。

2 長谷川 直哉（植物分野（あじさい））

長谷川園芸（町内事業者）

涸沼自然公園のあじさいを植栽。

3 石角 直樹（キャンプ場分野）

ビブラント株式会社 代表取締役

涸沼自然公園キャンプ場においてキャンプイベントを開催。

4 田辺 隆文（サイクリング分野）

自転車競技大会「茨城シクロクロス」 代表

涸沼自然公園において、シクロクロス競技大会の開催実績あり。

日本自転車競技連盟審判有資格者

5 川島 省二（自然環境分野）

一般社団法人茨城県環境管理協会 環境事業部長

茨城県環境アドバイザー（自然環境部長）

6 望月 昇（造園分野）

有限会社望月造園 代表（町内事業者）

涸沼自然公園の植栽管理を長年にわたり担当。